

大谷石・未来へ 「宇都宮ブランド」を目指して

宇都宮街づくり推進機構
大谷石特別委員会
委員長 塩田 潔

宇都宮街づくり推進機構・大谷石特別委員会では、この一年大谷石の「宇都宮ブランド」化を目指し、様々な検討及び活用事例の情報収集を行ってきました。活用事例の情報収集には「活用事例調査カルテ」を作成し、建築関係団体や石材業関係団体等を通じてお願いし、わずか数カ月の間で約70物件程、特徴ある使い方をした事例が収集できました。

これは、建築に留まらず彫刻やオブジェ、工芸品等多くのジャンルに渡り作品が集まりました。時間をかければ、まだまだすばらしい作品が潜在していると思われます。

そんな中、近年において大谷石を特徴的に使用した建築作品が、栃木県の「マロニエ建築景観賞」、宇都宮市の「まちなみ景観賞」、足利市や佐野市等においても「建築文化賞」として多く受賞されています。これ



二期倶楽部 ■平成9年第9回栃木県マロニエ建築賞



HAT ■平成16年第16回栃木県マロニエ建築景観奨励賞、同年第8回宇都宮市まちなみ景観大賞



栃木信用金庫桜通り支店 ■平成19年第19回栃木県マロニエ建築景観奨励賞、同年第11回宇都宮市まちなみ景観賞



S邸 ■平成20年第12回宇都宮市まちなみ景観賞



ドコモショップ宇都宮北店 ■平成20年第12回宇都宮市まちなみ景観賞

は、「大谷石」という素材」が地方の建築文化や街並景観を形成するものとして高い評価を受けているからに他なりません。最近県内では飲食店や美容室等で好んで使用され、又栃木信用金庫金桜通り支店、真岡信用組合荒町支店等金融機関においても優れた建築作品が増えています。

大谷石使用の顕彰制度の確立を！

このような観点からも、「大谷石建築」はフランク・ロイド・ライトの旧帝国ホテル以来唯一と言ってよい日本における「石造建築文化」であって、宇都宮が全国に、世界に誇れるものとしては、餃子やジャズ以上のポテンシャルを持っているものと確信できます。それ故、全国を相手とした「大谷石に特化した作品(建築に限らず、アート、オブジェ等も含め)の顕彰制度」を確立することによ



真岡信用組合荒町支店 (受賞の可能性が高い作品)

りさらに注目度が増え、「大谷石」が宇都宮にとって「オンリーワンでナンバーワン」のものであるというブランド化が促進されると思われるます。さらに「産業観光」の街としても活気が甦るでしょう。

「石蔵の再生・活用」を支援促進する制度の充実を！

宇都宮市内の中心部及びその周辺部に大谷石建造物が370棟程調査(2005年)され、その中でレストランやギャラリーに活用されている

例が16件ほどあります。又、市外、県外でも20件近く確認されていますが、未確認のものも相当数あるはず。このように再生・活用されているということは大変すばらしいことであり、ブランド化にとって貴重な活きた財産として賞賛すべきと思います。このような石蔵等大谷石建造物再生がさらに増えていくよう「活用支援制度」を現在の中心部(中心市街地活性化のカテゴリー)のみならず、エリアをせひとも拡大し、「ブランド化というカテゴリー」で考えるべきと思います。

その他

「大谷石の古材の再利用システム(古材バンク)の確立」、「大谷石使用の場合の支援制度」、「研究機関との提携の確立」、「大谷石ショールームの設置」等を含めて、宇都宮市に提案いたしました。「宇都宮ブランド」化に向けた宇都宮市の対応に期待が高まります。

NPO法人大谷石研究会
副理事長 塩田 潔

大谷石の不思議を解明する

大谷石研究会 専門部会

大谷石研究会の活動報告

大谷石研究会に専門部会が発足したのは約2年前になる。大谷石の名を掲げたNPO法人として、大谷石に関して調査・研究し見識を深め社会のために役立てていくべきだということが始まったのが専門部会である。幸い会員には様々な分野の専門家が所属しており、その十数名が部会を構成している。少なくとも年に1回会員の方々を対象に成果を発表している。

大谷石の不思議

大谷石は日本人にとって最も身近な石といえるが、その割には性質・性能について知られていない。

大谷石の塀の一段目の表面が層状に剥落したり、粉体状に風化している姿をよく見かける。そのため大谷石を使うことを躊躇する人も少なくない。しかし、その多くは大谷石の性質を理解していないための間違いの使用方法から生じている。正しく使って頂くために、性質を科学的に分かりやすく説明しようというのが、部会が最初に取り上げた研究課題である。

大谷石は水の影響を強く受ける。濡れると色が変わる。これは大谷石が吸水するためと考えられる。吸水すると石とは思えない程膨張するが、その膨張を抑えるためにはそれほど大きな力を必要としない。また、乾燥した大谷石と、湿潤状態にある



吸水による大谷石の膨張

ものでは驚く程強度が違つ。しかし、土に埋めた大谷石の敷石は意外と劣化しない。単に吸水させなければよいわけではない。この様な大谷石の不思議を科学的に分析、解明して大谷石の正しい使い方に役立つ成果を発表してきた。

これからの課題

大谷石の地下採掘場の安全性、大谷石を使用した伝統的な建物の構造や構法、またその耐震性と改修方法など解決していかなければならない。また少し観点を変えて、歴史的、郷土的に見ていく必要がある。大谷石を軸に世界遺産を考えるためには欠かせない観点である。

また、大谷石の風合いがなぜ日本人に好まれるのかといったことも心理学的なテーマになると思われるし、

芸術的な視点で見ると大谷石の評価を高める上で重要であると考えられる。課題は山積みであり、腰を据えて見ていく必要がある。

そして、会員の方々から、大谷石についてこの様なことが知りたい、この様なことを調べてみたい、面白いのではないかとといった意見があれば、できるだけそれに応えていきたいと考えております。

NPO法人大谷石研究会 顧問
専門部会
小西敏正・宇都宮大学名誉教授

大谷寺の千手観音菩薩立像

「大谷観音」として親しまれている大谷寺の本尊千手観音菩薩立像は、従来平安時代の初期に造られたといわれるが、仏像研究家北口英雄氏の最近の調査研究によれば奈良時代末期のもので、しかも中央政府の命を受けた官営造仏所の仏工によるものという。

この千手観音は、石心塑像で、岩肌 directly 生漆を塗り、その上から塑土を塗っている。岩肌に直接生漆を塗ったのは、岩肌に含まれる水分が滲み出て表面の塑土を剥落するのを防ぐためであり、生漆は岩質硬化のための処置である。塑土には雲母が多量に含まれており、水分が蒸発した時の収縮率が少なく、粘土質に吸着する性質がある。また、塑像表面が滑らかに見えるなど、良質の塑刑材料であるという。造形面だけでなく岩質に応じた制作が出来たのは、中央政府の命を受けた官営造仏所の仏工のみが造れるものであり、その背景には蝦夷に対峙する下野の重要性があり、千手観音は戦勝を祈願しての造作にほかならないという。

大谷石と共に150年
採掘販売事業部・石材加工事業部・砕石加工事業部
設計・施工
有限会社 高橋佑知商店
本社 宇都宮市大谷町350番地
TEL 028(652)0005(代表)
FAX 028(652)0192

国登録有形文化財 小野口家住宅
画廊と庭園
〒321-0344 宇都宮市田野町885
TEL 028-652-0407 FAX 028-652-6360
http://www5.plala.or.jp/toeido/
E-mail:toueidou@gray.plala.or.jp

大切にしますパートナーシップ
印刷技術がいかに進歩しようとも
技術表現の根幹は「心」であると考えます
印刷のご用命は
株式会社 新光社印刷
〒321-0811 宇都宮市大通り2-4-1番地
TEL 028-633-4718(代) FAX 028-637-3981

販売・商品開発
有限会社 KANEHON
〒321-0345 宇都宮市大谷町 350 番地
TEL 028-652-0172 FAX 028-652-0192